

# 偉大な成果を確認しさらに前進しよう



## 動労千葉

85. 2. 23

No. 1872

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

### 当局の団交をきり「60・3」強行策動を粉碎 総屈服状況つき破り、実力反撃への突破口を

動労千葉は、労働強化と人減らしの「60・3」強行に抗議し、撤回を求めて2・20/21非協力・安全確認行動の第一波闘争に決起し、敢然と闘いぬいた。この闘いは、当局の団交打ち切り「60・3」強行を阻止し、政府・自民党、国鉄当局の国鉄労働運動解体プランに大打撃を与える一方で、全国で苦闘する国鉄労働者を鼓舞激励し、「80年代に通用する労働運動」の創造にむけた展望を切り拓いた。この成果のうえに、さらに当局を追い詰め「60・3」強行阻止、組合要求獲得にむけ闘いぬこうではないか。

「60・3」は断じて認められない

「60・3」は動力車乗務員に肉体的、精神的限界をこえる労働強化を強い、大量の人減らしを強行することで労働者に屈服をせまる悪らつきわまりない攻撃である。さらに当局は「60・3」を10/15万人首切りの突破口と位置付け、大量の「過員」を生み出し「余剰人員解消」と称して「三本柱」「過員対策」等を強制し、国鉄から放り出そうとしている。

こんな理不尽な提案をどうして認めることができようか。

動労千葉は、団交の席上で厳しく当局を追及し、提案の撤回を求めてきた。しかし当局は、「本社の圧力」を唯一の「回答」に、不誠実な対応に終始してきたばかりか、2月15日、われわれの要求とははるかにかけ離れた修正提案をもって、団交打ち切り「60・3」強行の姿勢で臨んできた。

動労千葉はこれに抗議し、撤回を求めて2月20/21日、非協力・安全確認行動に決起したのである。

全組合員が意志一致し第一波闘争に決起

中曽根の凶暴な「国鉄」攻撃のもとで屈服を重ねる国鉄労働運動は、今後5年間で10/15万人の首切りを許すのか否かが問われる「60・3」の闘いを許さずと後景化させ、動労「本部」革マルにあつては「60・3賛成」の立場で当局の攻撃に手を貸してきた。

動労千葉は、こうした厳しい状況の中で「60・3」への決起を訴えるとともに、この闘いを「80年代後半に通用する労働運動」を創り出す出発点ととらえ、組織化してきた。全支部で職場集会、個別オルグを積みあげ、「実力決起の意義」を意志一致し、創意工夫をこらした取り組みを展開してきた。こうした苦闘のうえに万全の体制を確立

し、非協力・安全確認行動の第一波闘争に突入し、敢然と闘いぬいたのだ。

かちとつた偉大な成果を確認しよう

われわれの闘いは偉大な成果をかちとつたことについて、全組合員がしっかりと確認しようではないか。

第一に、厳しい情勢の中で全組合員が非協力・安全確認行動の指令を完璧に消化し、しかもこの闘いが的確な効果を発揮して当局を追い詰め、団交打ち切り「60・3」強行を阻止し、組織と団結の強化をかちとつたことである。

第二に、国鉄労働運動が敵の凶暴な攻撃のまえに総屈服を深め、まったく闘えない中で、動労千葉の非協力・安全確認行動は、ストライキに匹敵する闘いとして敵に一步もつけ入るスキを与えず唯一闘いぬかれたことにより、動労「本部」革マルの裏切りと反労働者性を暴き出し、中曽根、国鉄当局の国鉄労働運動解体プランに大打撃を与えたことである。

第三に、動労千葉は非協力・安全確認行動を既成の労働運動の限界性を突破し、80年代に通用する労働運動を創り出す出発点として闘いぬくことにより自信と確信を深めたことである。

第四に、この闘いが国労共闘の前進をはじめ、多くの労働者人民の支持、共感をかちとることにより、動労千葉の「三里塚・国鉄を基軸に中曽根内閣と対決する労働運動」路線の正しさを検証し、真に労働者の解放をめざす闘いとして大きく飛躍する展望を切り拓いたことである。

われわれは、以上の成果をがっちり確認したうえで「60・3」強行阻止、組合要求の前進にむけ、さらなる実力決起も辞さず闘いぬこう。

来る3月2日の「『60・3』粉碎・動労千葉総決起集会」の大結集をかちとり、その勝利の上に3・24三里塚へ、三たび5割動員を実現しよう。